

# 9月25日(土)13:30～社会運動戦略研究会(第1回)

## 主催:日本社会連帯機構

日本社会連帯機構は、この「労働者協同組合法制定記念 YEAR」の取り組みの一環として、「社会運動戦略研究会」を設立致します。(添付趣意書、要綱参照)第一弾として、以下、永戸代表理事他、発起人の座談会からスタートします。

WEB参加も可能です、多くの皆さまの積極的な参加をお待ちしております。

### 第1回:9月25日(土)13:30～15:30

#### テーマ「なぜ今、社会運動戦略研究会を立ち上げたか」(発起人4名座談会)

トピック: 第1回社会運動戦略研究会

時間: 2021年9月25日 01:00 PM 大阪、札幌、東京

Zoom ミーティングに参加する

<https://zoom.com.cn/j/85258797267?pwd=ajkxWXdSdlVtQzZDdHo5QkR4WEpNdz09>

ミーティング ID: 852 5879 7267

パスコード: 443398

参加費: 1,000 円(資料代含む)

#### 発起人

永戸 祐三 日本社会連帯機構 代表理事

西谷 修 同 副理事長

山本 幸司 同 副理事長

吉原 毅 同 副理事長

事務局: 中野 理 同 特別委員

\* 第2回: 10月16日(土)13:30～15:30

講師(予定): 吉原 毅 日本社会連帯機構副理事長

主催: 日本社会連帯機構

共催: 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 センター事業団 協同総合研究所

研究テーマ(参加者からの要望に応じて今後調整)

1. 国際情勢: 米国の世界戦略と日本の基地・自衛隊、核兵器と原発等
2. 気候危機: IPCC 報告書、気候危機と若者の運動等
3. 政治問題: 政党政治・立憲主義・民主主義の危機、全体主義の潮流等
4. 経済問題: 新自由主義政策の限界、新たな経済産業政策の可能性等
5. 社会保障: 医療・年金・福祉と労働・就労政策等
6. 社会運動: 多様な社会運動・大衆運動の現在と未来等
7. 労働者協同組合(法): 協働労働運動の展望(本格的な社会運動へ)等

\*\*\*\*\*

### 社会運動戦略研究会の設立について

新秋の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2020年12月4日に制定された労働者協同組合法が、2022年10月1日に施行されることが決まりました。これを踏まえ、ワーカーズコープ関係4団体(日本社会連帯機構、日本労働者協同組合連合会、センター事業団、協同総合研究所)は、2021年10月1日から2022年10月1日までの一年間を「労働者協同組合法制定記念 YEAR」と位置付け、各種の記念行事(集会・フォーラム等の開催、記念出版等)を連続して行う予定です。

日本社会連帯機構は、この「労働者協同組合法制定記念 YEAR」の取り組みの一環として、「社会運動戦略研究会」を設立致します。新型コロナウイルスのパンデミックが続く中、新自由主義による搾取・収奪はますます進行し、全体主義が勢力を増す一方で民主主義の危機が叫ばれ、「気候危機」はいよいよ誰の目にも明らかになっています。私たち市民・大衆は、この根源的危機を克服するために、今こそ新たな社会運動を起こし、未来への道を切り拓かなければなりません。その糸口すら見出しあぐねているのではないのでしょうか。

かくして「社会運動戦略研究会」は、現在私たちが直面する諸問題を学び、その解決を目指す新たな社会運動の戦略を構想することを目指します。研究会のより詳しい趣旨及び要領は添付文書をご参照下さい。研究会への参加はどなたでも自由です。とりわけ若手の実践家の積極的な参加を待望しています。

日本社会連帯機構  
代表 永戸祐三

## 社会運動戦略研究会 趣意書

～新たな闘い、新しい生き方のために、みんなで学習し、研究する～

現在、人々は世界をどのように認識しているのだろうか。大半の人々は現在の世界に「明るさ」よりも「暗さ」を、未来には「希望」よりも「絶望」を見ているかもしれない。社会が孤独と分断に喘ぐ中で、無力感に苛まれているのではないか。「どうせ自分には何もできない」「多少のことをやったところで何が変わるものでもない」... 自分も時にそのような無力感に襲われる。

資本主義は全地球を市場化し、各国に新自由主義政策を押し付け、際限のない搾取・収奪を徹底してきた。それは今なお猛威を振るっているが、他方で「行き詰まり」の段階を迎えつつあることも断言できる。しかし同時に、資本主義に対抗する市民・民衆の運動も鮮明な方向性を見出せず、「どん詰まり」にあるのではないか。私たちは座して破局を待つことしかできないのか。

「温暖化」と言い、「気候危機」と言われ、いずれにせよ資本主義の苛烈な収奪の結果として地球環境が崩壊の危機に瀕している。そこに発生した新型コロナウイルスのパンデミック。それは現在の世界、人間のあり様に対して何を突き付けているのか。その本質的な意味は、私たちに何を示唆しているのか。

日本に目を転ずると、さらに苛酷な現実が露呈しており、その抱える諸矛盾は日増しに激しくなっている。急速に進む少子高齢化と人口減少、長期かつ深刻な経済停滞、不安定就労や失業の増大、膨張し続ける社会保障費と財政赤字、化石燃料への過度な依存、教育格差の拡大と「生きづらさ」を抱える子ども・若者たち、貧困と社会的孤立の蔓延...。社会の荒廃は止めようもなく広がり、とりわけ地域・地方の衰退は著しい。それにも関わらず政治は機能不全に陥り、政治に対する市民・民衆の思想的状況を含めて、民主主義・立憲主義が危機に瀕している。「この状況は酷い、あまりにも酷い」と思うのは自分だけなのか。この危機からの出口は、希望への道はどこにあるのか。

私たちは確かに根源的危機の中に立たされている。しかし、これは同時に私たちが壮大な転換期に立っていることでもある。座して破滅を待つのか、未来を切り拓く道を見出せるのか。誰も他人まかせにはしておけない。自分自身がどうあるべきか、どうあらねばならないのか、今こそ意を決して事に挑まねばならない。

そのために人類と世界、日本社会が直面する根本問題を研究する機会をつくりたい。「研究のための研究」ではない。根源的危機の研究から、危機を乗り越える新しい社会運動の戦略を構想し、未来を切り拓く実践に繋げるための研究会—「社会運動戦略研究会」である。老若男女、とりわけ若手の実践家が集い、ともに学び合い、互いに研鑽し合う研究会としたい。

全世界を全体主義が覆い始めているからこそ、もっと自由と連帯を、本当の自由と連帯を、自由と連帯のために。これが焦点である。

社会運動戦略研究会 発起人代表  
永戸 祐三